

- 進行・再発癌       術後補助化学療法       術前補助化学療法  
 大量化学療法       局所療法       その他(      )

投与順	抗癌剤名(商品名・略号)	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日(d1, d8等)
1	ペバシズマブ(アバステン:Bev)	15mg/kg	div	初回90分 2回目以降 60~90分 3回目以降 30~90分	d1
2	エルロチニブ(タルセバ)	100mg/body	経口		連日(d1-21)

1コース期間 (次コースまでの標準期間)	3週間
総コース数	PD、または副作用が許容できなくなるまでになるまで
コース間での休薬の規定	<b>【Bev】</b> ・Grade3以上がある場合 ・出血:Grade2 ・タンパク尿Grade3:Grade2以下に回復になるまで休薬
減量規定・中止基準	<b>【Bev】</b> 高血圧症脳症、高血圧症クリーゼ、ネフローゼ症候群、消化管穿孔 <b>【エルロチニブ】</b> ・間質性肺疾患が疑われる場合、角膜炎(grade2~)、下痢(grade2~)、 発疹(grade2~)AST、ALT(grade3~)、2.5ml以上の咯血 減量:・副作用の発現により50mgずつ漸減
投与量の増量規定	なし
投与期間の短縮規定	なし
コースによる変化	なし
1日の中での抗癌剤投与順	なし
プレメディケーション・ポストメディケーション	<プレメディケーション>なし

患者条件(初回条件)

※CTCAE v4.0

- ・PS 0-2
- ・主要臓器機能に大きな異常がない
- ・非扁平上皮癌
- ・**EGFR遺伝子変異陽性あり**(2015/2月時点)

除外規定

- ・手術実施日より、28日以内の患者
- ・血栓塞栓症合併(既往歴の場合は、慎重投与)
- ・咯血(2.5mL以上の鮮血の咯出)の既往のある患者
- ・本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
- ・明らかな腫瘍内の空洞化、大血管への癌の浸潤

実施上の注意点

**【エルロチニブ】**:・間質性肺炎には注意

その他(特記事項)

- ・タバコ(喫煙)の患者ではAUCが64%低下する
  - ・エルロチニブとして100mgを食事の1時間以上前、又は食後2時間以降に1日1回経口投与する。
- なお、患者の症状により適宜減量する。